

27. 徳島県てんかん地域診療連携体制整備事業

徳島大学病院 てんかんセンター 高木 康志

概要

本事業は、医療・福祉・教育・就労・行政が連携し、てんかん患者が地域で安心して生活できる体制の構築を目的として実施している。

今年度は、オンライン開催の利便性を活かしつつ、教育分野では対面とWebを併用したハイブリッド形式を導入し、診療・啓発・連携活動を継続した。

本事業では、①診療・福祉保健分野のレベル向上、②地域診療連携体制の構築、③啓発活動、④相談支援体制の充実、⑤精神症状への対応、⑥トランジション支援、⑦災害対策の7項目を柱としている。

てんかんセンター診療実績

徳島大学病院てんかんセンターにおける診療実績は、近年安定して推移しており、県内における専門的てんかん診療の中核としての機能を維持している。

直近2年間の新患者数は、2024年が148人（小児18人、成人130人）、2025年が142人（小児19人、成人123人）であった。

逆紹介数は、2024年・2025年ともに11人（いずれも成人）であり、地域医療機関との役割分担が一定程度機能していると考えられる。

ビデオ脳波モニタリング件数は、2024年が83件（小児22件、成人61件）、2025年が72件（小児22件、成人50件）であった。

外来脳波検査件数は、2024年が1,142件（小児534件、成人608件）、2025年が1,001件（小児457件、成人544件）であり、診断・治療方針決定に必要な検査体制は安定して提供されている。

てんかん外科手術件数は、2024年が26件、2025年が23件であり、継続的に外科治療を提供できている。

また、遠隔連携診療は2024年に3件、2025年に3件実施され、専門医偏在への対応として活用されている。

これらの診療実績から、徳島大学病院てんかんセンターは、診断、検査、外科治療、遠隔連携を含めた包括的てんかん医療を安定的に提供しており、県内における専門診療拠点としての役割を果たしている。

1. てんかん診療機関・福祉保健の向上を目的とした活動内容と計画

徳島大学病院てんかんセンターを中心に、医療機関、教育・就労・福祉・行政が連携する地域診療連携体制を構築している。

徳島てんかん診療ネットワーク研究会およびてんかん治療医療連携協議会を定期的に開催し、診療連携や支援体制に関する課題共有と改善を行っている。

また、オンライン診療の導入により、地域間格差の是正と診療連携の円滑化を図っている。

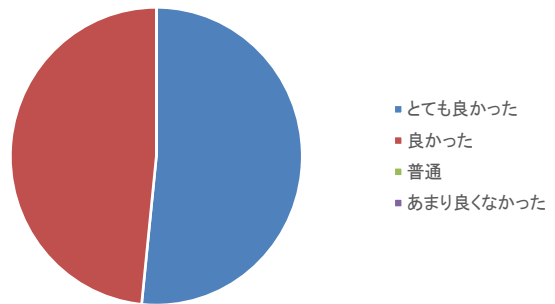
これまでの活動（過去5年間）

開催日	会の名称	場所	内容	参加人数
2020年9月4日	第2回徳島てんかん教育セミナー	Web配信	小児のてんかんの特徴と治療 地域におけるてんかん診療連携の取組み	50名
2021年6月6日	第4回徳島脳波セミナー	Web配信	脳波の温故知新	52名
2021年9月3日	第3回徳島教育セミナー	徳島大学病院 日亜メディカルホール+Web配信	てんかんの若年への支援～進学や成長期に向けて～ 睡眠てんかん学の臨床	20名
2022年10月5日	第4回徳島てんかん教育セミナー	徳島大学病院 日亜メディカルホール+Web配信	自動車運転とてんかん診療 ～地方における診療の立場から～ ～高齢者てんかんの診断と治療	25名
2022年7月10日	第5回徳島脳波セミナー	Web配信	小児の長時間ビデオ脳波モニタリングのコツ、 薬物治療について	50名
2023年7月16日	第6回脳波セミナー	Web配信	てんかんと精神症状	35名

2023年9月20日	第5回徳島てんかん教育セミナー	徳島大学大塚講堂2階小ホール + Web配信	妊娠適齢期でのてんかん診療 実臨床でのペランパネル使用経験と SEEG 導入後のてんかん外科	20名
2024年7月7日	第7回脳波セミナー	Web配信	脳波を信じて、脳波を信じない	59名
2024年11月28日	第6回徳島てんかん教育セミナー	徳島大学病院日垂メディカルホール + Web配信	てんかん診療における遺伝学的検査 脳波所見から考えるてんかん・神経発達症の行動異常～QOL向上を見据えた小児てんかん治療戦略～	50名
2025年7月6日	第8回脳波セミナー	Web配信	脳波と脳内ネットワークについて	64名
2025年12月2日	てんかん教育セミナーin徳島	大塚講堂2F小ホール + Web配信	てんかんに合併する神経発達症や行動障害の診療 症例から学ぶ精神科領域で役立つ脳波	24名

第8回脳波セミナーでの参加者からのアンケートでは全員（n=31）が参加して良かったとのことであり、今後も継続して行う。

第8回脳波セミナーアンケート結果（セミナーに参加して良かったか？:n=31）



(1) 診療施設のスキルアップ

- 徳島大学病院てんかんセンター、二次診療施設および一次診療施設における、てんかん診療に関する知識・技能の向上を目指す。
- 徳島大学病院てんかんセンターは、全国のてんかんセンターと連携し、最新の知見や診療技術を共有することで、てんかんセンター診療の質の向上に努める。
- てんかんセンターにおいては、症例検討会（原則として月1回開催）および、てんかん診療に関する看護師研修会を定期的かつ継続的に実施する。また、脳波セミナーおよび教育セミナーを引き続き開催する。
- 多職種連携を推進することにより、診療面のみならず、生活全般における質（QOL）の改善につながる体制構築を目指す。

(2) 教育関係者に対するてんかん講習会

- てんかん発作時の対応および、学校生活における日常的な配慮や指導方法について講習を行う。
- 特別支援学校の教員等、学校医、養護教諭等を主な対象とする。
- 今後も、学校関連施設における講演会や出張講座を継続的に実施し、教育現場におけるてんかん理解の向上を図る。

これまでの活動（過去5年間）

開催日	会の名称	場所	内容	参加人数
2020年2月19日	徳島県高等学校教育研究会養護学会研究会	あわぎんホール		57名
2021年3月10日	板野支援学校 出張講座	Web配信	てんかんがあっても安心した学校生活を	23名
2021年7月29日	鳴門教育大学附属支援学校 出張講座	Web配信	てんかんの診断から外科的治療まで 小児のてんかんと学校での生活の注意点	25名
2022年8月24日	「令和4年度第2回特別支援学校医療的ケア担当者研修会」および「令和4年度公立学校における医療的ケア担当者研修会」	Web配信	こどものてんかん診療 ～学校での生活～	133名
2023年8月9日	板野支援学校 出張講座	板野支援学校	小児てんかん 発作時の対応や学校生活も含めて	46名
2024年2月21日	てんかん出張講座（鴨島東こども園、鴨島呉郷保育所、高越こども園、子育て支援課）	吉野川市役所	小児てんかん 発作時の対応やこども園での生活も含めて	43名

2024年4月5日	てんかんセンター出張講座（加茂名小学校）	加茂名小学校	小児てんかん 発作時の対応や学校での生活も含めて	13名
2025年2月19日	てんかんセンター出張講座（美馬保健所管内）	美馬保健所 + Web配信	こどものてんかん てんかん発作時の対応や学校生活も含めて	31名

(3) 就労関連施設に対するてんかん講習会

- ・ 今後も継続して、就労関連施設を対象とした講習会を開催する。
- ・ 若者サポートステーション等の関係機関と連携し、てんかん患者の就労支援に関する事例検討会等を行う。

これまでの活動（過去5年間）

開催日	会の名称	場所	内容	参加人数
2020年7月9日	産業医研修	徳島産業保健総合支援センター	てんかん患者さんが安心して仕事ができるように	36名
2020年12月16日	治療と仕事の両立支援勉強会	徳島産業保健総合支援センター	治療と仕事の両立支援勉強会	7名
2021年8月4日	産業保健関係者研修セミナー	徳島産業保健総合支援センター	てんかん患者さんが安心して仕事ができるように	7名
2021年11月25日	産業医研修	徳島産業保健総合支援センター	てんかん患者さんが安心して仕事ができるように	
2022年6月21日	ハローワーク出張講座	Web配信	てんかんってどんな病気 ～てんかん患者さんが安心して仕事ができるように～	21名
2023年3月13日	とくしま地域若者サポートステーション出張講座	Web配信	てんかんってどんな病気 ～てんかん患者さんが安心して仕事ができるように～	6名
2023年9月25日	てんかんセンター出張講座	ふらっとKOKUFU + Web配信	徳島大学病院てんかんセンターの活動とてんかん外科の紹介	38名
2024年9月10日	徳島地域若者サポートステーション出張講座	Web配信	てんかんってどんな病気～てんかん患者さんが安心して働くために～	4名

2. てんかん診療連携構築を目的とした活動内容と計画

徳島県におけるてんかん地域診療連携本体制は、てんかんに関する診療連携を中核とし、患者および家族会、行政、教育機関、就労支援施設、障害者施設、福祉施設等が相互に連携する「顔の見える関係性」の構築を目指すものである。

これまでの取り組みにより、関係機関間の連携は徐々に進展しており、定期的に徳島てんかん診療ネットワーク研究会およびてんかん治療医療連携協議会を開催してきた。また、緊急カード等の支援ツールを作成し、地域における実践的な連携強化を図っている。

今後は、診療連携体制のさらなる実効性向上を目的として、就労に関する相談施設のアクセスポイントを明確化し、患者および関係機関が必要な支援につながりやすい体制整備を進める予定である。本体制は、医療分野にとどまらず、生活支援や社会参加を含めた包括的支援を可能とする地域連携モデルである。

(1) 徳島てんかん診療ネットワーク研究会はオンラインで開催した。

これまでの活動（過去5年間）

開催日	会の名称	場所	内容	参加人数
2021年11月6日	第3回徳島てんかん診療ネットワーク研究会	Web配信	てんかん診療コーディネーターの役割 てんかんと就労	28名
2022年9月11日	第4回徳島てんかん診療ネットワーク研究会	Web配信	当院における高齢者てんかんの治療経験 徳島県てんかん地域診療連携体制整備事業で何が変わったか？ てんかん地域診療連携における課題と展望	29名

2023年12月23日	第5回徳島てんかん診療ネットワーク研究会	Web配信	てんかんを持つ子を支える-小児科医としてできること- 当院におけるてんかん診療コーディネーターの役割 徳島県医療的ケア児等支援センターについて 小児期てんかんの薬物治療	40名
2025年2月22日	第6回徳島てんかん診療ネットワーク研究会	Web配信	てんかんに併存する神経発達症や行動障害の診療 当院におけるてんかん診療コーディネーターの役割 神経発達症や行動障害を評価するときに役立つ心理検査 てんかん診療連携と精神科医の役割	20名

(2) てんかん治療医療連携協議会の設置

第8回てんかん治療医療連携協議会を、2025年2月27日にWebおよび現地参加を併用したハイブリッド形式で開催した。本協議会では、てんかん診療に関わる課題の抽出および、本事業における今後の事業計画の策定について協議を行った。本協議会は、関係機関間での情報共有および連携強化を目的として、これまでどおり年1回の開催を予定している。

(3) オンライン診療の導入

てんかんの疑いがある患者が主治医と同席し、オンラインでてんかん専門医の診察を受ける「Doctor to Patient with Doctor」（保険診療）および、すでにてんかんと診断されている患者を対象としたオンラインセカンドオピニオン外来（自由診療）を実施している。

これらのオンライン診療は、てんかん専門医の地域偏在に対応し、専門的てんかん医療の均てん化を図る手段として有効である可能性が示唆される。これまでに、遠隔連携診療として計13例が実施された。

(4) 自立支援制度が2医療機関へ適応が拡大された

自立支援医療制度については、各医療機関において年間3回以上の受診が必要であるという条件はあるものの、従来の1医療機関から、2医療機関まで適用対象が拡大された。本制度の拡充により、診療連携の柔軟性が向上し、複数医療機関による継続的なてんかん診療が行いやすい環境が整備された。本制度を活用し、専門医療機関と地域医療機関の連携をより円滑に進めていく。

3. てんかんに関する啓発活動と計画

患者・家族・医療従事者向けの各種パンフレットを作成し、てんかんセンターホームページから公開している。また、県民公開講座の動画配信や当事者講演を通じて、てんかんに対する正しい理解の普及と偏見の軽減に努めている。2025年3月2日には、当事者である加納塩梅氏を講師に迎え、「当事者が変われば社会が変わる」をテーマとした講演を実施した。さらに、2026年3月8日には、当事者であり元力士の豊ノ島氏による講演を予定しており、当事者の視点を取り入れた啓発活動を継続していく予定である（図2）。



図2

これまでの活動

開催日	会の名称	場所	内容	参加人数
2021年3月4-22日	てんかん市民公開講座2021	ケーブルテレビで8回放送	てんかんを学ぼう！ ～みんなで支えよう～	8回放送
2022年1月30日	てんかん市民公開講座2022	徳島大学病院 日亜メディカルホール+ケーブルテレビ放送	てんかんを学ぼう！ ～みんなで支えよう～	会場 17名 +7回放送
2023年3月24日～	令和4年度てんかん県民	徳島大学病院てんかんセンターホームページにて公開	てんかんを学ぼう！ ～みんなで支えよう～	429回再生 (2024/2/7時点)

	公開講座			
2024年3月3日	てんかん市民公開講座	あわぎんホール	～みんなで応援しよう！！ てんかん支援の輪	149名
2025年3月2日	令和6年度 県民公開講座	徳島大学大塚講堂	てんかんのある人が安心して生活するために 病気だって友達、当事者が変われば社会が変わる	
2025年3月8日	令和7年度 県民公開講座	徳島大学病院 日亜ホールホワイト	～てんかんと共に生きる～ てんかんから得た、豊ノ島の型	

4. てんかん患者と家族に対する相談および指導體制の向上を目的とした活動と計画

てんかん発作の多くは短時間で収束する一方、就学、就職、結婚など人生設計に関わる場面で病気の影響を受けることが多く、生活の質（QOL）は大きく障害される。このため、てんかん患者が安心して社会生活を営むためには、診断・治療に加え、福祉制度の活用、就労支援、自動車運転に関する指導など、多角的かつ継続的な支援が必要である。

当院では、てんかん診療支援コーディネーターを配置し、現在、認定資格を有する3名が相談支援を担っている。今後、県全体での相談体制の充実を図るため、研修機会の提供や広報活動を通じて、人材育成と配置の促進に取り組んでいく。

また、てんかん、もしくはてんかん疑いと診断され、運転免許の取消しや制限を受けた患者が、通勤や通院等の移動手段に困難を感じるケースは少なくない。自動車は徳島県において重要な生活手段であり、運転制限は日常生活や社会参加に大きな影響を及ぼす。

現在、当院てんかんセンター外来患者を対象に、運転免許に関するアンケート調査を実施している。その結果、発作抑制により運転免許取得が可能であることの認知度は高く、取得率は85%であった。一方で、2年以上発作が抑制されている患者が74%であるにもかかわらず、現在運転を行っていない患者が38%存在することが明らかとなった。

運転制限により、公共交通機関の利用による経済的負担や、通勤方法・業務内容の変更、退職・転職など、就労への影響も認められた。公共交通機関の利便性が必ずしも高くない徳島県においては、運転制限を受けた患者に対する代替移動手段の確保が課題である。

今後は、本アンケート結果を行政機関と共有し、公共交通機関利用支援制度の拡充やデマンドバス等の導入について働きかけを行う。また、医療機関や地域支援機関と連携し、教育セミナーや出張講座を継続的に実施することで、医療・福祉・就労・交通分野が連携した相談支援体制の構築を目指す。

5. てんかん患者の精神症状に対する対応・活動と計画

てんかん患者の約40%には、うつ、不安、精神病症状、発達特性などの精神症状が合併するとされ、これらは発作予後や治療継続、就学・就労、生活の質（QOL）に大きな影響を及ぼす重要な課題である。

当てんかんセンターでは、小児科、脳神経内科、脳神経外科、精神科が連携した診療体制を整備している。徳島大学病院では、てんかん専門医である精神科医によるてんかん専門外来を設置し、てんかんに合併する精神症状の診療を行っている。本外来では、トランジション症例の受け入れに加え、てんかん外科手術症例に対する術前・術後の精神症状評価および継続的フォローを実施している。また、心因性非てんかん性発作を合併する症例に対しても、精神科的評価および治療を行っている。

精神科を基盤としたてんかん専門医は中四国地方においても限られており、今後は専門医の育成を通じて、地域全体の対応力向上を目指す。

地域医療においては、精神科が包括的支援の一翼を担い、医療機関に加え、授産施設、生活支援事業所、訪問看護ステーション等と連携している。発作の抑制のみならず、生活上の困難や社会参加の課題にも目を向け、全人的支援の実現に貢献していきたい。

本事業では、多施設・多職種連携の推進および精神症状に関する啓発活動を重点項目としている。多施設連携による支援症例は増加しており、支援者間の相互理解と連携強化を目的として、2023年度より地域精神科病院における出張講座を実施している。

一方で、精神症状への自覚が乏しい、あるいは相談先を知らない患者も存在するため、今後も啓発活動を継続し、早期相談と適切な支援につなげていく。これらの取り組みを通じ、精神症状を含めた包括的てんかん診療の地域モデル構築を目指す。

これまでの活動

開催日	会の名称	場所	内容	参加人数
2023年8月30日	てんかんセンター出張講座	Taokaこころの医療センター	徳島大学病院てんかんセンターの活動とてんかん外科の紹介 てんかんと心のケア	50名
2024年7月31日	てんかんセンター出張講座	むつみホスピタル	てんかん診療の基本から最新治療まで～多職種連携の必要性～ てんかんと心のケア	32名
2025年9月4日	てんかんセンター出張講座	藍里病院	てんかん診療の基本から最新治療まで～多職種連携の必要性～ てんかんと精神症状	93名

6. 小児科から成人科医療への移行（トランジション）に関する対応・活動と計画

小児期発症のてんかんのうち、約60～70%は寛解が得られる一方で、成人期以降も発作が持続する症例が一定数存在し、約20%では生涯にわたり発作が持続するとされている。このため、一部の患者では成人診療科への移行（トランジション）が必要となるが、成人診療科医師の不足や合併症診療の問題から、移行が困難なケースも少なくない。

徳島大学病院では、てんかんセンター開設以降、小児期発症てんかん患者の成人診療科への移行が着実に進んでいる。2020年1月から2025年12月までに、トランジションの同意を得て成人診療科へ紹介できた患者は計67名であり、年次推移からも、センター活動の定着とともに移行が順調に進んできている。

トランジション症例のうち、知的障害を有する患者は49名（73%）を占めており、これまで移行が困難であった症例についても、成人診療科への移行が進んできている。一方で、近年は基礎疾患や知的障害を有さない患者の移行割合も徐々に増加している。

移行先は院内成人診療科が中心であり、精神科神経科、脳神経外科、脳神経内科をはじめとした複数診療科で受け入れが行われている。特に、知的障害を合併する患者を精神科神経科で受け入れている点は、他県と比較しても恵まれた体制と考えられる。症例によっては、てんかん診療と身体・精神合併症の診療を複数診療科で分担する対応も行っている。

当院てんかんセンターでは、月1回の症例検討会を開催し、重症心身障がい者など移行が困難と予想される症例について問題点と対応策を検討している。必要に応じて、小児科と成人診療科が一定期間共診するなど、個々の症例に応じた柔軟な対応を行い、円滑な移行を目指している。

本年度は、徳島てんかん診療ネットワーク研究会やてんかん診療連絡協議会等を通じて、県内の成人診療医療機関との連携を強化し、引き続きトランジションの重要性について情報発信を行う。

近年増加している医療的ケア児の中には、在宅人工呼吸管理を要する重症心身障がい児（者）など、成人診療科への移行が極めて困難な症例も存在する。こうした症例についても、今後、関係診療科や関係機関と連携しながら、段階的に検討を進めていく。

7. 災害への対策整備・活動と計画

災害時におけるてんかん患者への対応を目的として、「てんかん患者さんの災害対策」に関するパンフレットを作成し、啓発活動を行っている。

徳島県においては、災害時に備えた抗てんかん薬として、これまでにバルプロ酸、フェノバルブ注、セルシン注、ダイアップ坐薬が備蓄されている。近年、新たにレベチラセタム錠およびドライシロップ（DS）が追加され、さらに、レベチラセタム点滴静注製剤が追加された。

一方で、バルプロ酸については錠剤製剤のみでは小児患者への対応が困難な場合があることや、内服が困難な症例に対する選択肢が限られているという課題がある。このため、災害時における小児例および内服困難例への対応を考慮すると、バルプロ酸シロップ製剤の追加備蓄が望ましいと考えられる。

今後も、行政機関と連携しながら、災害時においても継続的かつ適切なたんかん診療が提供できる体制の整備を進めていきたい。